

# 里のほほえみの生育ステージの目安と多収条件

## 1 はじめに

里のほほえみが平成21年に奨励品種に採用されて10年あまり経ち、年次による生育ステージおよび収量の違いについてまとめましたので報告します。

## 2 技術内容

### 1) 生育ステージについて

大豆の生育は日長の影響を受けるため、播種日が遅れるほど開花までにかかる積算気温は少なくなります(図1)。各生育ステージまでの積算気温や播種日から推測される生育ステージについては表1のようになります。

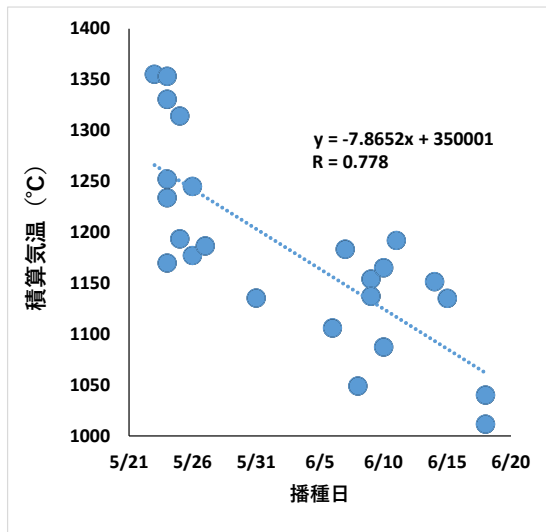


表1 播種日から開花期、開花期から成熟期までの積算気温と生育ステージの目安

播種期	開花期		成熟期	
	積算気温 (°C)	(平年時)	積算気温 (°C)	(平年時)
5/25	1250	7/19	2187	10/18
5/30	1211	7/21	2147	10/18
6/5	1164	7/24	2086	10/20
6/10	1124	7/27	2026	10/21
6/15	1085	7/29	1986	10/23
6/20	1046	8/1	1926	10/24
6/25	1006	8/3	1886	10/25

図1 播種日と開花期までの積算気温の関係 (2007-2020)

### 2) 収量について

これまでの収量の結果をみると、青立ち程度が高いと収量が低下し、青立ち程度は精子実粒数が少ないと高まる傾向でした。また、青立ち程度が3以上と高い年は開花期が遅い年で、開花が遅いと梅雨明け以降の乾燥により、着莢が悪くなって青立ちとなったと考えられます。①開花期から開花盛期に乾燥となる場合や台風に伴いフェーン現象となる場合は畝間灌水を行うこと、②梅雨明け後の乾燥のリスクを減らすために、6月5日より早く播種を行うことで、着莢数を確保し青立ち現象を抑えることで収量を高めることができます。

## 3 技術の効果コスト

播種日から開花期が推測できるので、培土や防除作業の計画を立てることができ、青立ちのリスクを軽減することで、収量が安定します。

### [その他]

研究課題名：大豆奨励品種決定調査

研究期間：平成19～令和2年

研究担当者：農試 次世代技術研究部 山口